

innovation

# イノベーション!

## 新分野・新製品に 挑戦する経営革新

前回から2ヶ月を経ましたが、経営革新の方向は見つかりましたか? 「そんなに簡単に見つかるわけがないだろう!」ごもっとも。失礼致しました。といっても、現在の事業分野や取引先に活路を求めても、脱出口は見つからないかもしれません。経済の低迷に加えて、少子高齢化や国際競争力の低下によって、既存の市場において全ての企業が現在の事業分野で黒字を出し続けることは難しい状況です。どう考えても出口を見つけることができなければ、全く新しい分野や製品に挑戦しなければなりません。安定社会を迎えようとしている日本の将来において、「環境保全」「安全衛生」「情報技術」「少子高齢化」に関する分野で高い事業可能性が期待できそうです。

### 環境保全に関する新たな事業分野

前回も環境保全が商売の対象となり得ることを説明しました。私たちが生活している地球の資源は限られています。2000年に「循環型社会形成促進基本法」が制定され、日本はリサイクル国家を作り上げることが宣言されました。国際的には「京都議定書」が排出ガス等の数値基準を示しています。企業の大小を問わず、環境保全のために新たな経費が発生することになります。この経費を吸収するところに中小企業としての新分野・新製品があると考えられます。古本や中古OA機器のようなリサイクルショップは市民権を得ています。再利用可能な原材料を使用する製品の開発にも需要が高まることが予想されます。

### 安全衛生に関する事業分野

O-157やBSE問題等によって、国民全体に安全に関する意識が高まっているようです。経営革新を検討するときに、この分野では様々な可能性を発見できるはずですが。最近多いのは「水」と「食品」に関する経営革新です。水道水を浄化するための「炭(活性炭)」事業がその代表例ではないでしょうか。HACCP(食品の安全衛生基準)を全面的に打ち出した食品加工工場も出現しています。

### 情報技術に関する事業分野

世界全体ではIT(情報技術)に関連する産業の成長は鈍化しています。しかし、我が国は経済を活性化する目的も含めて「e-japan重点計画」に取り組んでいます。政府は「2005年までに世界最先端のIT国家になる」ことを目指し様々な対策を実施しています。高速回線の敷設、学校のIT化、行政のIT化、電子商取引の促進、セキュリティ確保等具体的な環境整



## 新しい 事業分野



環境保全



安全衛生



情報技術



少子高齢化

備を推し進めています。ここにも経営革新のテーマが潜んでいます。WEB(ホームページ作成)技術を応用してホームページの企画・維持・管理を請け負う商売も始まっています。年配者が年配者にITを教えるビジネスもあります。パソコンのレンタル・リースも再び注目されるようになりました。家電をITで制御する企画の標準化が進んでいます。家電の分野にも新たな需要が出てきそうな雰囲気です。

### 少子高齢化に対応する経営革新

2050年には国民の1/3が65歳以上になることが予想されています。それ以上に重要な数字は1.33人という出生率ではないでしょうか。日本は近い将来、50歳以上が人口の半数以上を占めるようになると考えられます。中高年は年をとっても自立して生活ができる状況を今から準備しなければなりません。生活に関するあらゆる分野で新たな需要が発生すると考えられます。今は介護保険に関心が集中していますが、

これからは生活の補助具や福祉社会システムにも関心が広がりそうです。かわいらしい癒しロボット、大きなボタンの電話等使いやすい生活の道具(ユニバーサルデザイン)、遠隔医療、老人のデイサービス等新たな事業が芽生えつつあります。

### 待っているのは経営革新ができない

今までの事業から目を転じてみれば、様々な可能性が日本の社会には残されています。しかし、棚ぼた式に事業が舞い込んでくることはありません。製品開発であれば公開されている特許を利用することも可能です。人脈を作るためには様々な会合等に出席してチャンスを得ることが必要です。少しでも可能性がある分野があれば、積極的に取り組むことが今の時期には必要です。この2年間は飛翔するための準備期間にしたいと思っています。今焦ってもしょうがありません。じっくり検討しようではありませんか。(taku)